

# 第7回自治体学会賞(2017年度)表彰式

2017年8月26日 山梨学院大学メモリアルホール

## 第7回自治体学会賞の選考過程について

自治体学会 学会賞委員会委員長  
国吉 直行 (横浜市立大学国際総合科学部)

本年7回目を迎える自治体学会賞は、巻末に記した9名の委員からなる学会賞委員会によって、田村明まちづくり賞、研究論文賞、自治体学研究奨励賞の3つの賞の選考を行った。ここにその経過および授賞理由を報告する。

2017年5月31日までの公募期間に、田村明まちづくり賞に1件、研究論文賞に5件の応募があった。自治体学研究奨励賞は、公募は行わず、学会誌『自治体学』に掲載された論文のうちから選考されることがあらかじめ定められている。

受賞者選考のための学会賞委員会は、まず2017年6月11日に開催され、田村明まちづくり賞については活動内容や業績について議論した結果、応募の候補は有力であるが、他に候補としてふさわしい活動を再度検討することを、研究論文賞については、応募の5件以外に学会員が発表した著作1件を加え6件を候補とすることを、また自治体学研究奨励賞はこの1年間に学会誌『自治体学』に掲載された研究論文1件を候補とし、選考することが決まった。各候補に関する討議を行った上で、研究論文賞と自治体学研究奨励賞に関しては委員の中から各2名の査読者を選定した。なお、研究論文賞の候補の6件のうち、1件については委員会の委員が編著となっていたため、その委員は研究論文賞の査読及び選考の審議からは外れることとした。

第2回の学会賞委員会は7月9日に開催され、田村明まちづくり賞は候補の1件と追加で推薦された1件の2件について慎重審査し、研究論文賞と自治体学研究奨励賞は査読の結果を基本に多面的に慎重審査し、以下の通りの結果を得た。

田村明まちづくり賞は、山梨県早川町で、河川の上流域の歴史と風土、受け継がれてきた暮らしを早川町の将来へ繋げる活動に長年取り組んでいる「特定非営利活動法人 日本上流文化圏研究所」と真田10万石の城下町松代(長野市松代町)で、歴史を活かした地域主体のまちづくり活動を積み重ねてきている「特定非営利活動法人 夢空間 松代のまちと心を育てる会」に、贈ることが決まった。

研究論文賞に関しては、慎重審議の結果、自治体学会議員研究ネットワークの「Q&A 地方議会改革の最前線」に授与することが決まった。自治体学研究奨励賞については、慎重審議の結果、評価を得ることができず、今年度は授賞を見送ることとした。

各賞の受賞者の業績と授賞理由は以下に記すとおりである。受賞者各位のこれまでのご努力に敬意を表すると共に、今後のなお一層のご活躍を祈念したい。

## 受賞者と授賞理由

**田村明まちづくり賞**：特定非営利活動法人 日本上流文化圏研究所 様

対象活動：『山梨県早川町の風土と暮らしを活かし山村の再生をめざす活動』

早川町は県の南西部、南アルプスの東麓にあり、96%が森林という典型的な山村で、東日本大震災の影響を受けた福島県内の町を除けば、人口 1,068 人（平成 27 年）は、日本で最も人口の少ない町である。町の中央部を南北に貫流するのが、富士川支流の早川で、昭和初期と昭和 30 年代の発電ブームで 12 の水力発電所が建設され、現在も稼働している。江戸時代から続く雨畑硯、明治期の鉱山開発も行われ、フォッサマグナと呼ばれる地溝帯も町内を縦貫し、断層露頭部も間近で目にすることができる。早川上流部には西山温泉、奈良田温泉などの秘湯があり、町内南部の信仰の山、七面山への参詣客の講中宿である赤沢集落は、重伝建地区に指定された町並みも有する。

厳しい山村ではあるが、河川の上流域には多様な歴史と風土が培われてきたと考え、そこで受け継がれてきた暮らしを町の将来へ繋ごうと開設されたのが「日本上流文化圏研究所」である。町と連携して多様な活動に取り組んでいる。若いスタッフが中心となり、大学生をインターンシップとして受け入れ、多様な活動を展開している。卒論や修論の対象地域として町を調査をする学生には積極的な支援をする。また学生のスキルを活用して、町民一人ひとりのホームページをネット上に立ち上げる「2000 人のホームページ」の開設もユニークである。

町内に点在する 36 の集落を支えることも研究所の重要な任務である。集落ワークショップを開き、課題を確認し解決に向けて共に取り組む。埋もれた魅力や記憶からも消えそうになる暮らしの歴史をビジュアルにまとめた情報誌「やまだらけ」（現 80 号）の発行も、集落の人たちの気付きを促すことになる。町が進める山村留学制度とタイアップしての移住者支援、お母さんたちが始めたそば処アルプスの支援など、取り組む事業は多岐にわたる。

こうした多様な取り組みが、山村の豊かさと可能性を再認識することに繋がり、日本上流文化圏研究所が厳しい上流域のまちづくりを牽引している。よって、ここに自治体学会賞田村明まちづくり賞を贈り、山村が今後も活力の溢れる場となることを期待するものである。



早川町の集落



河川沿いのワークショップ

**田村明まちづくり賞**：特定非営利活動法人 夢空間 松代のまちと心を育てる会 様  
対象活動：『長野市松代町の歴史を活かした地域住民主体のまちづくり』

真田 10 万石の城下町松代（長野市松代町）は多くの武家屋敷とその庭の泉水、町家の家並みなどが残る歴史文化の香るまちである。

「夢空間 松代のまちと心を育てる会」（理事長香山篤美氏）は 2001 年の設立以来、一貫して、地域住民および来訪者のために、松代の歴史文化を活かしたまちづくりに関する多方面の事業を行い、地域の活性化に貢献してきた。

その活動は、松代をまるごと博物館とするために、地域資源を地道に掘り起こすことから始まり、松代の活性化を図ることが目標となっている。具体的な活動としては、まち歩きセンターの開設と自主的な運営、まち歩きガイドの育成、地元高校の美術部と協働した寺巡りスタンプの作成、まち歩きプログラムの開発やガイドブック作成などによる地域振興の推進、レンタサイクルの運営、案内看板の設置、視察研修の受け入れ、松代学講座やまちづくり研究会の開催、絵本や紙芝居の作成、歴史的建造物に関する書籍の刊行、文化財登録の支援、複数の建物の管理運営など、じつに多方面に及んでいる。

とりわけ、地域住民の地元理解を深め、地域再発見を推進する活動とそこで再認識された松代の価値を来訪者に向けてわかりやすく伝える活動とを並行して行っている点で異彩を放っている。地に足がついた着地型観光とまちづくりの接点を拡大すべく、地元商業者が核となって松代を愛する地域住民有志が中心となって、長年非営利の活動を継続して積み重ねてきた実績は貴重である。

「夢空間 松代のまちと心を育てる会」は信州大学農学部や工学部とも信頼関係を保持し、長野市文化財課や観光推進課とも良好な関係を保って活動を行っている。

NPO 法人「夢空間 松代のまちと心を育てる会」の地域住民主体による多方面にわたるまちづくり活動の実践は、他地域の模範となるものである。よってここに、自治体学会賞田村明まちづくり賞を贈り、歴史文化を活かしたまちづくりのさらなる展開を期待するものである。



松代まちあるきツアー



まちづくりの話し合い

## 研究論文賞：自治体学会議員研究ネットワーク 様

対象著書：『Q&A 地方議会改革の最前線』（学陽書房）

小規模自治体で議員のなり手不足から議会の存続が危ぶまれたり、劇場型の首長主導型民主主義が注目を集めたりする中、「地方議会」が正念場を迎えている。本書は、自治体学会議員研究ネットワークのメンバーらが、ともすれば形骸化しがちな地方議会改革を持続・発展させていくための理論や対応策をまとめたものである。第一部では、地方議員（前、元を含む）が「討議文化を根付かせ存在意義を示す」「執行部との善政競争」「会派の活用」といった課題について現場からの解説を行い、第二部では、編著者である江藤俊昭氏が、議会改革を住民福祉の向上につなげる“もう一歩”について、政策サイクルの作動や住民参加の深化にかんする道筋を示している。全編を通じて、今日の議会改革の到達点と残された課題とを明確にし、市民にとっての議会改革の意義を説く内容になっている。

選考過程で、専門誌の連載記事をもとにした Q&A 形式の書籍に「研究論文賞」はふさわしいか—という議論があった。

しかしながら、本書は自治体学会が重視する“現場知・実践知”の集積であり、「“議会学”の確立をめざす」という執筆者らの志の成果が議会改革を推進する力となることは評価できる。

よって、ここに自治体学会賞研究論文賞を贈るものである。

### 選 考 委 員

学会賞委員会	委員長	国吉 直行	横浜市立大学国際総合科学部特別契約教授
	副委員長	岡崎 昌之	法政大学名誉教授
	委員	相川 康子	NPO政策研究所専務理事
		内海 麻利	駒澤大学法学部教授
		江藤 俊昭	山梨学院大学教授
		内藤 恒平	ヨコハマ パトナの会代表・法政大学兼任講師
		中川 幾郎	帝塚山大学法学部名誉教授
		西村 幸夫	東京大学工学部教授
		山口 道昭	立正大学法学部教授

### 自治体学会賞

自治体学会賞は、日本における自治体の発展と地方自治に対する顕著な貢献をなしたと認められる研究および業績、今後に期待できる研究および業績等に対して授与するもので、学会創立代表運営委員の一人田村明先生が2010年にご逝去され、ご遺族から学会の活動に役立ててほしいとご寄付をいただき、これを機に2011年に創設したものです。

田村明まちづくり賞は、まちづくりの分野で顕著な業績をあげた個人または団体に、研究論文賞は、地域や自治体の活動に関する研究として顕著な貢献が認められる、近年発表された自治体学会員による著作または研究論文に、自治体学研究奨励賞は、学会誌『自治体学』に掲載された論文のうち、地域や自治体の活動に関して貢献が認められる論文にそれぞれ授与しています。